

## 第40回全国都道府県対抗女子駅伝大会

### ●チーム監督に激励金を贈呈

新型コロナウイルスは終息せぬままに2度目の新年を迎え、恒例の全国都道府県対抗女子駅伝大会は、昨年の第39回大会は中止となりましたが、第40回大会は会場の京都市たけびしスタジアム京都(発着)は感染防止対策として無観客での開催が決まりました。

例年、京都佐賀県人会の新年会と重ねて駅伝選手、関係者への慰労会が行われておりましたが、今年もコロナ禍のために中止となり、大会前日の15日、当会を代表して松尾専務理事と中島事務局長が京都市内の宿舎「こうろ」に出向いて、激励の言葉と激励金を樋渡朋子監督



に贈呈させて頂きました。新年早々から第6波の感染者急増により、今回は異例の形で、旅館のロビーには監督ほか関係者のみに出てもらって、選手には対面しない激励の場となりました。

(事務局)



### ●粘りの走りで惜しくも31位

明けて16日、寒冷前線も抜けて気温10度の好天候に恵まれての大会が開催されました。それでも冬の京都はかなり冷えましたが、佐賀県代表は樋渡監督のもと、1区は39位と少し出遅れたものの、5区では平島ゆゆ選手が8人抜きの好走を見せて28位まで追い上げる走りを見せました。しかし、そのあと順位を下げ、最後のゴールは前回と同位の31位となりました。

前回大会の令和2年(2020)の佐賀県代表の成績は31位・記録2時間23分32秒でしたが、今大会の記録は2時間22分50秒と前回は42秒更新する好成績でした。優勝は地元京都府代表が、2時間16分15秒という好成績で前回大会に続く2連覇を果たし、自らの最多記録を更新する18度目の優勝でした。

昨年12月26日に開催された「全国高校駅伝競走大会」での女子・白石高校と男子・鳥栖工高に続き熱戦を繰り広げる大会となりました。来年は更に高みを見据えて精進した成果を遺憾なく発揮してくれる大会になることを期待します。

次回もまた皆様の暖かい応援をお願いいたします。

(広報部会:於保記)



9区のアンカー・平井見季選手